

# 下 商 物 話 (その一)

## 生徒の制服のほなし

教諭 林 俊行

記録によると本校の制服は、早くも開校四年目頃から登場します。しかし、当時余りにも豪華すぎて父母から反発が強く、姿を消すことになりました。本格的な学生服が登場するのは、明治三十年頃のようです。冬は黒、夏は霜降りの詰襟に白いゲートルで、「きりりとした姿にひかれた周辺の女学生から好意を寄せられた学生が多かった」と、当時の淡い思い出を語られる先輩方の声をよく耳にしました。「下商の制服は若者の憧れの的でした」とも伺います。しかし、昭和六年の新生から突然異次元に国防色の平襟になりました。当時の時代背景からしてもわかるように軍事優先がエスカレートした時代で、校内は国防色一色になりました。さらに、昭和十六年頃からカーキ色の陸軍調に一変し、

戦闘帽・編み上げ長靴に巻きゲートルとなり、当時からすると外観がレペルタウンしたとの記録もあります。無論、当時は男子校なので現在と違って女生徒の姿は校内にはなく、毎朝の朝礼のたびに服装検査があり、ボタン一つ落ちていても叱られた厳しい時代で、先生には全て停止敬礼で自転車に乗っている時に会えばいちいち止めなければならなかったそうです。上級生には歩きながらの敬礼で良かったが欠礼すると殴られたようで、外出する場合は制服制帽か袴に制帽と決まっております。ほとんど本校の生徒として厳しい指導があった反面、愛校心は強かったのです。

本校の制服について開校時から現在までを簡単にまとめると次のようになります。

明治十七年 十月  
自由(ほとんど和服)

明治十九年 五月  
洋服に

明治二十六年 三月  
制服が華美で費用がかかると市議会で指摘

明治三十年頃  
学生服制定(詰襟)

※この頃カティシヤスの校章制定か

明治三十五年 七月  
襟章制定

明治三十六年 六月  
更衣の制度開始

※夏服を浅黄霜降とする

明治三十七年 一月  
帽章貸与制(卒業時返還)

昭和五三年(学生まで)

明治四五年 三月  
服装についての通達

※ゲートル(無色麻製)を登下校時にも着用

昭和六年 四月  
異下男子の制服統一化

制服・制帽ともに「綾織りねずみ霜降」へ

昭和十六年 四月  
全国の男子制服を統一

帽子は戦闘帽・制服は小倉織国防色などへ

昭和十九年 四月  
女子入学 紺のセーラー服に黒ネクタイ(当初は終戦前後のため、あり合わせのもの(もんぺ)を着用)

昭和二十四年 三月  
同窓生パッチを卒業生へ(貸与した帽章・胸章返還に代わるもの)

昭和二十八年 四月  
制服復活(更衣も)

昭和四一年 四月  
女子の制服変更(現在の制服)

※写真は新制服

但し、各自採寸したオーダーメイドで平成になって既製服化へ) 新生より順次着用

昭和五三年 四月  
校章貸与制度廃止、個人購入制へ

平成七年 四月  
男子の制服変更(現在の制服)・女子制服も一部改良新入生より

平成二十四年 四月  
男女とも新制服に 新生より順次着用予定

